

泥炭地

開拓の歴史を学び「自然との共生」を模索



梅田安治氏の案内で「泥炭地資料館」を見学
いまや日本有数の穀倉地帯となった「石狩低地帯」は泥炭地の開拓の歴史と今後の進むべき道を考えようと、二月十三日、関係者二十名は水士里ネット篠津中央内「泥炭地資料館」を見学した。

梅田安治氏の案内で「泥炭地資料館」を見学



案内役は農村空間研究所所長の梅田安治氏。泥炭地の生成過程や分布をはじめ、開拓の流れなどを詳しい説明があった。特に暗渠の

- ⓪：当別スエーデンヒルズカントリークラブ内のアイスバー&アイスホテル
- ⓫：当別駅に隣接する倉庫を改築し、客で賑わう、物産館・ふれあい倉庫



システムを分かり易く模型化した「NPO篠津泥炭農地環境保全の会」と世界の泥炭地（チャタレー・モス、ソーン湿原などの紹介が印象に残った。天井に届く「泥炭地層標本」に驚いていると、「北村の資料館には良質なものがあると」と梅田氏。開拓から自然との共生を目指す「泥炭地保全・復元構想」も掲げられていた。エコネットワークの形成や農業用水の高度利用を強調する。当会との連携の可能性は高い。一方、前段の見学地も目新しいもの。新しい観光の試み「アイスバー&ホテル」と当別駅隣の倉庫を改装、賑わいを見せる「ふれあい倉庫」手作り・焼立てパンやピザが嬉しかった。

ふらっと南幌会報

発行元

NPO
ふらっと南幌

南幌町栄町
4丁目4番19号
378-2203

剣淵・VIVAマルシェと交流会

剣淵町「VIVAマルシェと連動した道北グリーンツーリズムの拠点構想推進協議会」から四名が、三月十五、十六日、当会との交流会、フットパス体験のために訪れた。ECO田んぼ事業などの取組みポイントや農都共生の核であるフットパスの現状と今後の展開を説明。南幌



意見交換・フットパスで交流約束

温泉での交流会、翌日の月例フットパスを通して、今後の情報交換も含め、互いのより深い交流を約束した。



昨年が続いて「エコ田んぼ」オーナーを募集します。区画数は二十。一区画の価格は昨年と同額の二万五千円。最低収量は四十キロです。お早めの申し込みを。なお、今年は六月初旬の「田植」と九月下旬「稲刈」は体験型。七月中旬の「草取り」

eco



田んぼ

～美唄に学べ～ グリーン・ツーリズム勉強会

「グリーン・ツーリズム勉強会」を開催。修学旅行生などの受け入れを通して「農家体験」について検討した。今後も継続予定。



「農家民泊」の可能性を探ろうと、三月七日、美唄市で「地域おこし協力隊」として活躍された、増子和美さんを招き、初の

と十月中旬の「収穫祭」は「生き物調査」などを含めた「親子ツアー」や「旬の野菜ツアー」を予定。収穫祭には嵯峨さんの「軽トラライブ」も企画するなど、さらに発展させる方針。参加される皆様のアイデアを広く募集します。詳しくはブログで
(<http://ameblo.jp/nanporo-table/>)